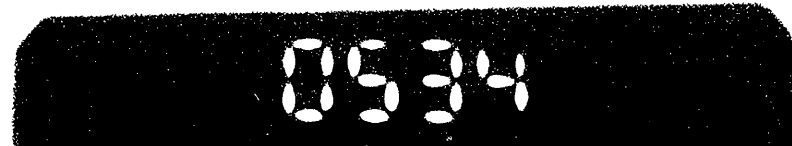


レノ 諾威汽船「ユミタ」號、台北州不閉港場(蘇澳)入港ニ関スル件

6

F-0122





拓 第 號 昭和十一年三月九日午後五時三十分受主任

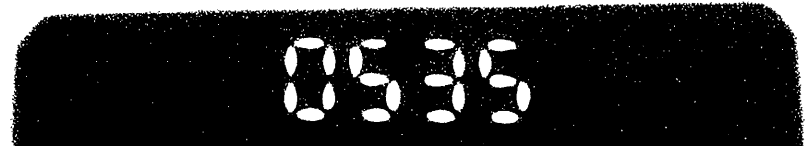
(電報譯文用紙甲)

宛 名	拓務省管理局長	發 信 人	臺灣警務局長
電 報 譯 文 (親 展)			
諾威汽船ユミタ號(ニ三四噸乘組員船長諾威人イイ。 ストーマー當四十八年外諾威人六名支那人四〇名)ハ三 井物産會社ノ傭船トシテ二月二十四日佛領印度支那 ゲイニ於テ無煙炭五、四〇〇噸ヲ積ミ橫濱ニ向ケ航行 中三月六日午前六時頃花蓮港沖(此點詳細取調中)ニ於 テ燃料炭缺乏且季節風強ク難航ニ陥リ基隆迄續行不可能 ナリト稱シ同日午後二時不開港場タル臺北州下蘇澳港南 方ヨリ約半哩ノ地點ニ投錨セリ入港ト同時ニ蘇澳郡ニ於 テ一應取調ノ上目下基隆ニ廻航セシメ船舶法違反トシテ 送局ノ見込ニテ詳細取調中			

拓 務 省

(日本標準規格 B 5)

F-0122



*Legation de Norvège*

Memorandum.

According to information received, the Norwegian steamship "Unita", which is under time charter to the Mitsui Bussan Kaisha, during its voyage from Hongkong to Keelung had to seek refuge at the harbour of Soowan, Formosa, as the ship was in distress and short of bunkers. The ship was subsequently detained by the Japanese Authorities.

The Norwegian Chargé d'Affaires a.i. would feel much obliged if the Imperial Ministry for Foreign Affairs would kindly consent to use their good offices in order to secure a speedy release of the detained ship, on account of the fact that the call at Soowan was made at a time of distress.

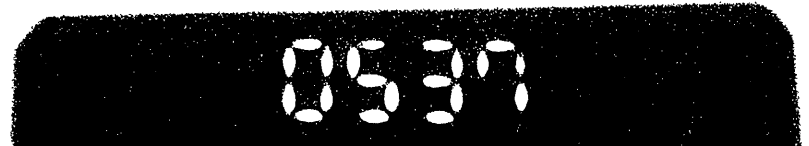
Tokyo, March 13th, 1936.

F-0122

0536

*Gato N. B. Aall,  
Consul for Norway in Tokyo.*

F-0122



分類 F.1.6.0.9

(號 外)

昭和十一年三月十九日

拓務省

赤木警務課長

外務省條約局

松本第二課長殿

諾威汽船「ユミタ」號ニ關スル件

電話御照會有之候首題ノ件別紙ノ通りニ有之  
右及回報候也

拓務省

(日本標準規格 B.5)

マイフライタール用紙半裁

一、諾威汽船「ユミタ」號ガ不開港場タル蘇澳沖ニ入港スルヤ蘇澳  
郡役所ニ於テ一應取調ノ上臺北地方法院檢察局ニ報告、全檢察  
局ニ於テハ直受事件トシテ捜査指揮ヲナシ捜査中ノ處三月十六  
日船長ヲ臺北ニ召喚(本船ハ基隆ニ廻航セシメ置キタリ)中村  
檢察官嚴重ナル取調ヲナシタル結果蘇澳ニ入港セルハ海難ノタ  
メ已ムヲ得サルモノト認メ不起訴處分ニ附シタリ  
ニ全船ハ十六日午後十二時基隆出港横濱ニ向ヘリ

拓務省

(日本標準規格 B.5)

F-0122

0538



歐亞局

警高秘甲第五〇三九號

昭和十一年三月二十日

台灣總督府警務局長 石垣 倉治

昭和十一年三月廿七日接受

拓務省 管理局 局長 殿  
 外務省 東亞局長 殿  
 內務省 警保局長 殿  
 北海道、警視廳、神奈川、愛知、大阪、兵庫 殿  
 福岡、石川、富山、南洋廳各道廳府縣長官 殿

ノ 船名、國籍、船種、噸數 總噸數三、五八六噸〇七  
 ユニタ號、諾威、貨物汽船 登簿二、三四四噸五九  
 船主及代理店 諾威汽船ユニタ號ノ不開港場入港ニ關スル件

船主 エツチエム ウランゲル  
 三井物産株式會社備船

船長 諾威人  
 外高級船員 諾威人 七名  
 下級船員 支那人 四〇名

右ユニタ號カ本年二月二十四日佛領印度支那ホンゲイニ於テ無煙炭五、八〇〇噸ヲ積載横濱ニ向ケ航行中海難ヲ避ケル爲メト稱シ三月六日午後二時不開港場タル台北州蘇澳郡南方澳ノ沖合約二哩半ノ地點ニ無許可入港投錨セル件ニ付テハ當時拓務(貴)省宛電報ノ通りナルカ台北州ニ於テハ入港ト同時ニ蘇澳郡警察課ヲシテ一應臨檢セシメタル上取調ノ關係上該船ヲ基隆ニ回航セシメ船舶法違反トシテ送致ノ見込ニテ捜査ヲ續行シタル處取調ノ進行ト共ニ海難ト認メラル、點顯著ニシテ別ニ容疑ノ點ヲ發見セス其旨所轄檢察局ヘ報告ノ結果本月十六日台北地方法院檢察局

F-0122

ニ於テ不起訴ノ決定アリ、船長ハ同日直子ニ出港準備ヲ整ヘ午後十二時  
横濱ニ向ケ基隆ヲ出帆シタリ  
本船入港迄、經過並ニ捜査及處斷狀況左記ノ通り  
右通報候也

追テ本件ハ最初ヨリ檢察官ノ直受事件トシテ取扱ヒ送致ノ形式ヲ執ラ  
サリシモノナリ

記

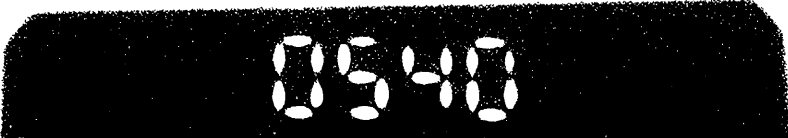
入港迄ノ經過

ユニタ號ハ昭和十年二月ヨリ三井物産會社ノチャーター船トシテ香港  
佛領印度支那ホンゲイ、同カンフアポート、南洋クリスマス島、新嘉  
坡、横濱、東京、名古屋、大阪、三池、若松、伏木、七尾、函館、小  
樽、基隆等各地間ヲ來往シ主トシテ石炭ヲ運送シ居ルモノナルカ本年  
二月二十四日佛領印度支那ホンゲイニ於テ無煙炭五、八〇〇噸ヲ積載  
シカンフアポート、基隆ヲ經由シ横濱ニ向フヘク出港シタルカ海南島  
海峡通過以來連日ノ荒天ト濃霧ニ妨ケラレ進航意ノ如クナラス停船或

ハ徐行等難航ヲ續ケ當初豫定セル四日半ニテハ基隆ニ到着シ得ス三月  
六日午前五時頃猶ホ花蓮港沖合附近ヲ徐行シ居リ（バシト海峡ヲ通過  
シテ本島東海岸沖廻リトセリ）而シテ此ノ時ハ既ニ出航以來九日ヲ經  
過シ燃料炭ハ甚シク不足シ基隆迄直行不可能ノ状態ニ陥リタリ（積載  
セル無煙炭ハ普通竈ニテハ燃燒不能ナリト）由ツテ同日午前六時頃基  
隆三井物産出張所ニ「燃料炭ヲ至急蘇澳港ニ廻送セラレ度シ」ト無電  
シタル處午前九時半頃三井支店ヨリ「基隆ニ直航セヨ」ト返電アリ  
タルモ午前十一時過キニハ燃料炭殆ント盡キタル爲メ「最早航行不可  
能ナル」旨再度無電シタルニ午後一時過キ三井支店ヨリ「蘇澳ニ燃料  
炭十五噸ヲ準備セル」旨ノ返電ニ接シ午後二時殆ント停船ノ状態ニテ  
前記地點ニ入港投錨シタルモノナリ（拓務省ヘハユニタ號ト三井支店  
トノ間ニ往復セル電文寫添付ス）

ニ捜査狀況

入港ト同時ニ蘇澳郡警察課ニ於テ一應臨檢シタルニ事實燃料炭ハ殆ン  
トタキ盡シ甲板部其他ノ材木ヲ引剝シ燃料ニ供シタル形跡アリ、狀況



州警務部ニ報告ノ結果州ニ於テハ事案ノ性質上慎重ナル取調ヲ爲スコ  
トトシテ所轄檢察局ニ報告スルト共ニ取調ノ關係上該船ヲ基隆ニ回航セ  
シメタリ  
因ツテニタ號ハ補給燃料十五噸ノ積込終ルヲ待チ三月八日(風浪強  
クシテ積込ニ時間ヲトル)午前九時蘇澳ヲ發シ全日午後四時二十分基  
隆ニ到着、基隆水上警察署ニ於テ取調ヘテ開始シタリ  
爾來船長以下主ナル船員及三井社員等ニ付嚴重取調ヲ爲ス一方船内ノ  
檢索ヲ勵行シタルカ燃料炭ノ積込調査或ハ毎日ノ檢炭ニ懈怠ノ事實ノ  
認ムルモ其他ニ容疑事實ヲ發見セス各人ノ供述モ大體一致海難ノ認  
メ得ラルル状態ニアリタリ(拓務省ヘハ各人ノ聽取書寫添付ス)  
處  
由ツテ敘上搜查狀況ヲ所轄台北地方法院檢察局ヘ報告セル處三月十六  
日檢察局ニ於テハ船長イ、スト、ト、トヲ召喚シテ應取調ノ上不起訴ノ決  
定ヲ爲シ出港差支ナキ旨ヲ言渡シタルモハカ、

F-0122

